
平成23年1月期
(平成22年1月21日～平成23年1月20日)
決算参考資料

平成23年3月2日
(株)サガミチェーン
東証・名証1部上場 コード:9900
設立:1970年3月 資本金:63億300万円

株式会社サガミチェーン

目次

1. 連結対象企業の事業内容	_____	P2
2. 平成23年1月期業績の概況	_____	P2
3. 財政・キャッシュフローの概況	_____	P3
4. 店舗展開の状況	_____	P3
5. 平成23年1月期業績の背景	_____	P4
6. 平成24年1月期の業績予想	_____	P5
7. サガミ中期経営計画について	_____	P5
8. 役員の変動について	_____	P5

1. 連結対象企業の事業内容

○連結子会社の対象範囲は5社であります。

[連結子会社]

名称	住所	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容	議決権の 所有割合 (%)
株式会社ディー・ディー・エー	名古屋市守山区	200,000	飲食店の経営 FC店舗への材料提供及 び経営指導	100.0
株式会社サガミサービス	名古屋市守山区	10,000	損害保険及び生命保険 の代理業務 店舗設備のメンテナン ス業務	100.0
株式会社エー・エス・サガミ	名古屋市守山区	70,000	飲食店の経営	71.4
株式会社ボンパナ	名古屋市守山区	50,000	ベーカリーの製造販売	100.0
上海盛賀美餐飲有限公司	中国上海市	260,000	飲食店の経営	93.4 (16.5)

※議決権所有割合の（ ）書きは間接所有部分で内書であります。

2. 平成23年1月期業績の概況

○連結ベースの経営成績

○単独ベースの経営成績

単位 (百万円/円)	平成22年 1月期	平成23年 1月期	前年比 (%)	単位 (百万円/円)	平成22年 1月期	平成23年 1月期	前年比 (%)
売上高	22,228	20,134	△9.4	売上高	19,570	17,531	△10.4
営業利益	△453	△230	—	営業利益	△404	△95	—
経常利益	△426	△205	—	経常利益	△385	△75	—
当期純利益	△2,925	△1,221	—	当期純利益	△2,796	△1,141	—
一株あたり 当期純利益	△119.9	△50.0	—	一株あたり 当期純利益	△114.6	△46.8	—

○平成23年1月期末の配当について

配当につきましては、平成22年3月4日発表の通り見送ることといたしました。

○株主優遇策について

平成23年1月20日現在に当社株式を一千株以上保有の株主様に対し、1万5千円相当(通期換算 3万円)の株主優待食事券を進呈いたします。

3. 財政・キャッシュフローの概況

○連結財政状態

単位 (百万円/%/円)	平成22年 1月期	平成23年 1月期
総資産	17,049	16,092
純資産	11,519	10,152
自己資本比率	67.5	63.0
一株あたり純資産	471.7	415.7

○連結キャッシュフローの状況

単位 (百万円)	平成22年 1月期	平成23年 1月期
営業活動によるキャッシュフロー	△251	△98
投資活動によるキャッシュフロー	△543	△566
財務活動によるキャッシュフロー	△351	664
現金及び現金同等物 期末残高	2,633	2,614

○設備投資について

連結設備投資は 858百万円 (H22.1実績 668百万円) となりました。

○減価償却費について

減価償却費は 512百万円 (H22.1実績 551百万円) となりました。

4. 店舗展開の状況

	平成22年1月期	平成23年1月期			平成24年1月期 計画		
	店舗数	出店	閉店	店舗数	出店	閉店	店舗数
サガミ	136	—	5	131	—	3	128
どんどん庵	81	1	6	76	3	6	73
あいそ家	11	3	—	14	3	—	17
上海盛賀美	4	1	—	5	2	—	7
製麺大学	—	7	—	7	—	—	7
その他	6	5	—	11	4	—	15
合計	238	17	11	244	12	9	247

○平成23年1月期の店舗展開の状況について

新業態開発として、「うどん」を主体とした大型セルフ店「製麺大学」を開発し 7店舗を出店いたしました。また、ボランティアチェーン等のフランチャイジーの試験店を 5店舗出店したのに加え、「どんどん庵 1店」「上海盛賀美 1店」、業態転換により「あいそ家 3店」を開店いたしました。これにより出店数は 17店 (うち純新店数 14店) となりました。一方、閉店につきましては「サガミ 5店 (うち業態転換 3店)」「どんどん庵 6店」の合計 11店 (うち純閉店数 8店) となりました。

これにより期末の店舗数は 244店となりました。

○平成24年1月期の店舗展開の計画について

業態変更を含む新規出店は「どんどん庵 3店」「あいそ家 3店」「上海盛賀美 2店」「その他業態 4店」の合計 12店 (うち純新店数 9店) を計画しております。一方、閉店につきましては「サガミ 3店 (うち業態転換 3店)」「どんどん庵 6店」の合計 9店 (うち純閉店数 6店) を計画しております。

これにより平成24年1月期末の店舗数は 247店を計画しております。

なお、新規出店等に係る設備投資につきましては、440百万円を計画しております。

5. 平成23年1月期業績の背景

- (1) 平成23年1月期の業績につきましては、減収・増益となりました。売上高は三期連続の減収。営業利益、経常利益、当期純利益につきましては四期ぶりの改善となりました。これは、平成22年1月期末（以下 前期末）に不採算店舗を19店閉鎖したことにより、売上高は減少したものの収益性が改善したためであります。
- (2) 平成23年1月期の取り巻く環境は、新興国向け輸出の拡大や政府の経済対策等により、緩やかではありますが景気回復基調となりました。一方、国内消費におきましては、記録的な猛暑等による消費の嵩上げ効果は見られるものの、国内景気や雇用環境の先行きに対する不透明感は拭えず、消費支出が持続的に改善するには至っておりません。
- (3) 上半期（平成22年2月期～平成22年7月期）の経常利益は前年同期比 29百万円改善の325百万円損失計上となりました。これに対し、下半期（平成22年8月期～平成23年1月期）は主力業態サガミの既存店客数が改善したこと等により、経常利益は192百万円改善の121百万円となりました。
- (4) 主力業態「サガミ」の既存店の状況につきましては、客数が前年同期比 0.2%増となり三期ぶりの増加となりました。しかしながら、客単価が前年同期比 2.3%減となり、これにより現金売上高は 2.6%減となりました。
- (5) 売上高につきましては、前年同期比 9.4%減収の 20,134百万円となりました。これは、前期末の店舗閉鎖による売上高の減少に加え、既存店売上高が減収となったためであります。
- (6) 売上原価率は前年同期比 0.2%ポイント増加の 31.5%となりました。販管費は新業態開発及び出店に伴う費用が増加したものの、前期末の店舗閉鎖等により前年同期比 1,695百万円の減額となりました。これにより、営業損失は前年同期比 222百万円改善の 230百万円、経常損失は前年同期比 221百万円改善の 205百万円となりました。
- (7) 当期純損失は 1,221百万円となりました。これは、経常損失に加え減損損失や資産除去債務適用に伴う影響等により特別損失を 1,046百万円計上したためであります。なお、前期末は店舗閉鎖に伴う撤退費用等を特別損失に計上し、当期純損失を 2,925百万円計上しております。このため、前年同期比では 1,704百万円の改善となりました。
- (8) 平成22年8月23日公表の業績予想（以下 修正予想）におきましては、既存店売上高を前年同期比 3.1%減で計画していたことに加え、前期末の店舗閉鎖による売上高の減収及び経費の減額を見込んでおりました。また、人件費や水光熱費等の経費削減により販管費率が 2%ポイント低下する計画でありました。
この結果、業績予想比では売上高で 115百万円の減収、営業利益は 230百万円、経常利益では 235百万円のそれぞれ減益となりました。
また、修正予想では特別損失を 920百万円を見込んでおりましたが、実績は資産除去債務適用による影響額等が増加し、これにより当期純損失は修正予想比 331百万円の減益となりました。

6. 平成24年1月期の業績予想

○連結ベースの業績予想

単位 (百万円/円)	第二四半 期累計	通期	前年比 (%)
売上高	9,380	19,750	△1.9
営業利益	△270	10	—
経常利益	△280	0	—
当期純利益	△420	△300	—
一株あたり 当期純利益	△17.2	△12.3	—

○単独ベースの業績予想

単位 (百万円/円)	第二四半 期累計	通期	前年比 (%)
売上高	8,100	17,250	△1.6
営業利益	△220	50	—
経常利益	△230	40	—
当期純利益	△370	△160	—
一株あたり 当期純利益	△15.7	△6.5	—

○連結ベースの業績予想について

- (1) 平成24年1月期の取り巻く環境は、新興国向け輸出と国内生産の増加により、景気回復傾向は持続するとの見方が大勢を占めております。一方、国内消費におきましては、政府の経済対策縮小や家計収入の伸び悩み等により回復は乏しく、依然厳しい状況が続くものと思われまます。
- (2) 通期の既存店売上高につきましては、直近の趨勢に基づき試算し、前年同期比「サガミ 1.6%減」「どんどん庵 10.0%減」を見込んでおります。
- (3) 売上原価率におきましては、前年同期比 1%ポイント低下の 30.5%を見込み、販管費では前年同期比 296百万円減額の13,722百万円を想定しております。
- (4) 特別損失におきましては、当該年度に発生する可能性がある減損損失を見積もり 190百万円を見込んでおります。
- (5) 配当につきましては見送る方針であります。

※業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

7. サガミ中期経営計画について

当社は中長期にわたる企業活動の継続と発展を実現し、企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上を図るためには、早期の業績改善と再成長に向けた施策が必要であると判断しております。そこで、当社は平成25年1月期を最終年度とする「サガミ中期経営計画」を策定し、業績改善に向けて取り組んでまいりました。

しかしながら、平成23年1月期の業績におきまして計画初年度の目標である、経常損失の解消を実現するには至らず、さらに特別損失の発生により想定以上の当期純損失を計上することとなりました。

当社と致しましては、直近の業績及び次期の見通し等を勘案し、中期経営計画を見直す必要性があると判断いたしました。そこで、組織編成を伴う新体制のもと、お客様起点・お客様基点の視座を全社で堅持しながら、改革路線をスピードアップさせる修正中期経営計画を策定中であります。

8. 役員の異動について

役員の異動につきましては現在、調整中であります。詳細が決定いたしましたら、速やかに開示いたします。

ディスクロージャーポリシー (Disclosure Policy)

(1) 基本方針

サガミグループは、「食文化を通じて地域社会に奉仕する」「企業を通じてお客様に奉仕する」という経営理念のもと、すべてのステークホルダーに対し、透明性、公平性、継続性を基本に証券取引法及び上場取引所の定める法令・規則を遵守し、タイムリーな情報提供に努めます。

(2) 情報開示の方法

東京証券取引所が定める適時開示規則に該当する情報の開示は、同取引所へ事前説明後、同取引所の提供する適時開示電子情報システム(TDnet: Timely Disclosure Network)に登録し提供しています。TDnet 公開後、すみやかに報道機関に同一情報を提供するとともに、当社ホームページへも掲載いたします。ただしシステムの都合上、これら情報の当社ホームページへの掲載が遅れることもあります。

また、適時開示規則に該当しないその他の情報につきましても、適時開示の趣旨を踏まえて適切な方法により正確かつ公平に開示する方針です。

(3) 業績予想および将来の見通しについて

サガミグループの計画・将来の見通し・戦略などのうち、過去または現在の事実に関する以外は、将来の業績に関する計画や見通しであり、これらは現時点で入手可能な情報による判断に基づいております。

したがって、将来の業績等につきましては、様々なリスクや不確定要素の変動および経済情勢の変化などにより異なる場合があります。

(4) 沈黙期間について

サガミグループは決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、決算発表日の一ヶ月間前の一定期間を「沈黙期間」としております。この期間は、決算に関する質問への回答やコメント、IR活動を控えることとしております。ただし、この沈黙期間中に業績予想を大きく変動する見込みが発生した場合には、開示規則に従い適宜公表いたします。

なお、沈黙期間であっても、すでに公表されている情報に関する範囲のご質問等につきましては対応いたします。

(5) ディスクロージャーポリシーの遵守

サガミグループは、「企業の社会的責任(CSR: Corporate Social Responsibility)」の観点からもグループの役職員全員に上記のディスクロージャーポリシーを周知徹底し遵守します。